

教育方法論（幼稚園）

概要

これからの教育に求められる、教育方法について学ぶ。はじめに子どもの発達段階と心理特性を確認し、その後年齢に合った保育方法（教材、話し方等の表現）を考え、演習する。一方、保育のデザイン、資料作成方法などについては、パソコンを利用した資料作成を通して学ぶ。

担当教員	堺 秋彦 他
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。

各回の内容

1. オリエンテーション・幼児教育の基本（育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価）
2. 幼児期の発達過程（神経系（脳）の発達に伴う情緒の発達、動作発達等）
3. 幼児期の心理特性（表象的思考、同一性、模倣、共感覚等）
4. 幼児教育における教材研究の意味とあり方
5. 幼児教育における保育展開のあり方
6. 幼児の想像力や感性を養う環境設定・表現方法
7. 教材研究（幼児の想像力や感性を養う教材の考案）
8. 教材研究（幼児の想像力や感性を養う教材の作成）
9. 教材研究（幼児の想像力や感性を養う教材の作成）
10. 教材研究（幼児の想像力や感性を養う教材の活用方法）
11. 教材研究（幼児の想像力や感性を養う教材の活用方法に基づく発表）
12. 幼児の想像力や感性を養う表現方法の工夫（話し方、書き方、造形表現）
13. 幼児の想像力や感性を養う表現方法の工夫（身体表現）
14. 幼児の想像力や感性を養う表現方法の工夫（音楽表現）
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

エクセル、ワード、エクセル、インターネット検索の操作に習熟しておく。（火曜日4コマ目）

幼稚園・保育園で作成されるおたよりなどに関心を持ち見ておく。

幼稚園教育要領解説P23～P61（幼稚園教育の基本、教職課程の編成）を熟読し幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

- 提出作品 50%（子どもが興味関心を持ち、想像力が養われるような視覚的、聴覚的要素を考慮した教材である）
- 課題発表 50%（子どもが想像しやすく、理解しやすい話し方や発表構成になっている）

教科書

なし

参考文献

随時紹介する

教育相談（幼稚園）

概要

教育相談およびカウンセリングの理論と基礎的手法について理解を深め、子どもとその保護者を対象とした支援スキルを実践的に学修することを目的とする。

担当教員	後藤 真
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	ことも保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育相談の理論を正しく理解した上で、基本的な相談技法を用いることができる。また、子どもを取巻く状況を、個人・家庭・社会といった多角的な視点から把握し、事例を詳細に読み解くことができる。

各回の内容

1. 導入：教育相談とカウンセリングマインド
2. 子どもを取り巻く環境と現状
3. 教育相談概論
4. 教育相談の技法
5. 支援者としての自己分析
6. 演習：関係性の構築
7. 構成的グループエンカウンター：「セルフケア」について
8. ライフサイクルにおける幼児期：「問題」に対する包括的理解と対応
9. 教育相談のプロセス
10. 演習：事例検討 「発達障害」
11. 演習：事例検討 「虐待」
12. 演習：事例検討 「家族と地域」
13. 連携と社会資源の有効活用
14. 構成的グループエンカウンター：「スーパービジョン」について
15. まとめ：教育相談の理論と技法

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

毎回の授業後に提出する小レポート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

無し

参考文献

授業中に適宜資料を配布する

幼稚園教育実習事前事後指導

概要

2年間で2回行う教育実習を念頭に、実習の意義や内容を理解し、教員の役割や職業倫理、保育の観察、記録、計画などについて学ぶ。実習後は、実習を総括し、自己評価を行ったうえで、今後に向け、それぞれの課題を明確にする。

担当教員	堺秋彦、長谷川美香
授業形態	実習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1、2年
時間数	90分×15回
単位数	0

目標

教育実習の意義を理解し、心構えを養うと共に、実習の内容を理解する。また、子どもの最善の利益の考慮についてや守秘義務、保育の計画、実践、記録や評価についても理解する。そして、自己課題を明確にしたうえで教育実習を行う。教育実習後は、新たな課題を基に今後の取り組みを整理できるようにする。

各回の内容

1. 教育実習の意義、目的
2. 実習生としての態度、心構え
3. 保育現場の現状と保育者の役割
4. 観察、参加実習の意義、目的
5. 幼児理解の視点と適切な支援、子どもの最善の利益の考慮と守秘義務について
6. 日誌を記録する意味とその重要性
7. 日誌の書き方
8. 教材の吟味と環境構成の在り方
9. 部分、責任実習の意義、目的
10. 指導計画の重要性とその作成、実践と評価
11. 指導案の作成
12. 実習への課題の確認
13. 実習体験の共有化と発表
14. 評価に基づく個別指導
15. 評価に基づく個別指導、自己課題への今後の取り組みの整理

準備学習（予習・復習等）

日誌や指導案作成、教材研究など、教育実習で必要と思われる準備を、授業時間外においても各自進めること。「幼稚園教育実習の手引き」をよく読み、普段の生活でも、場、相手に合った挨拶や話し方、服装などを意識し、実践するようにすること。子ども理解を深めるため、学内の「親と子の広場」に積極的に参加することを望む。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

各回の振り返り30%、課題及びレポート50%、提出物20%

教科書

「幼稚園教育実習の手引き」（本学作成のもの）、「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」（小櫃智子ら編著、わかば社）

参考文献

適宜、授業の中で紹介する。

幼稚園教育実習

概要

幼稚園教育実習 は「幼稚園教育実習」の観察参加実習の次の段階として位置づけられる。幼稚園教育実習 では、責任実習（部分実習、全日実習）を行うことにより、子どもへの理解をさらに深める。また責任実習を経験することにより、幼稚園教諭の役割、幼児教育の目標、幼児の生活、保育内容への理解、家庭教育支援に繋がる保育者の援助などの学びを深める。

担当教員	堺秋彦、長谷川美香
授業形態	実習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	15日間
単位数	3

目標

1・実習を通して指導教諭の実習指導のもと、実際に保育を行い、幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術を習得する。2・幼稚園教諭としての具体的な指導技術を習得する。3・幼稚園教育実習 や既習の授業の学びを活かし、実習に参加する。

各回の内容

1. 5月に実習園において15日間、保育活動に主体的にかかわりながら実習を行う。
2. 以下のような内容で実習を行うが、詳細は実習園により異なる。
3. 子どもの名前を覚え、関わりの中でありのままの子どもの姿を知り、子ども理解に励む。
4. 幼稚園の1日の流れを、総合的に理解する。
5. 一人ひとりの子どもの発達に即した援助の在り方、方法を学ぶ。
6. 幼稚園教諭としての態度、技術を習得し、必要な資質や技能を養う。
7. 担当教諭の補佐として、環境構成、教材の準備や後片付け、クラス運営の方法、行事の準備、清掃、その他の業務を行う。
8. 個人と集団の中で子どもを理解する。
9. 子どもの実態に合った教材を準備し、ねらい・場面の構成・留意点を考え、生活の一部分、または一日の指導案を作成し、実践する。
10. 個々の発達の姿を理解し、一人ひとりを大切にされた保育の実践を学ぶ。
11. 幼稚園、家庭、地域社会の連携のあり方を学び、子ども理解を深める。
12. 自己を客観的に見つめ、自己評価を行う。

準備学習（予習・復習等）

これまでの実習での課題をもとに、それぞれ準備を進めておく。指導案作成や教材等の準備も進めておくこと。幼稚園教育実習 の学びを活かせるように、反省や考察を深め、幼稚園教育実習 の自己課題を明らかにしておく。授業内容についても、振り返り、確認すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

実習先の評価70%、実習日誌の内容や実習中の様子等30%

教科書

「幼稚園教育実習の手引き」（本学作成のもの）、「幼稚園教育要領解説」、

参考文献

なし